



# おすすめ 台湾本

日本各地と台湾から

全 **50** 冊



- ・ 紀伊國屋書店スタッフのおすすめ
- ・ 台湾文化部（文化省）のおすすめ
- ・ 台湾紀伊國屋書店スタッフのおすすめ

FREE

台湾文化センター ×  紀伊國屋書店

## ごあいさつ

台湾文化センターと紀伊國屋書店は2022年、SNET台湾（NPO法人日本台湾教育支援研究者ネットワーク）の監修で、『臺灣書旅：台湾を知るためのブックガイド』を刊行し、紀伊國屋書店6店舗で開催したブックフェアは好評を博しました。2023年も引き続き、多様な魅力を持つ台湾を紹介して参ります。

本屋は文化の会合う場所。書店員の思い入れが、時に思いも寄らない本とあなたを結びます。今年は紀伊國屋書店と出版社の本好き・本読みから、2022 - 2023年の新刊を中心に、面白かった台湾本（台湾作家の本、台湾が舞台の本、台湾に関する本、台湾刊行の本）のおすすめコメントを集め、小さな冊子としました。網羅的なブックガイドではありませんが、一冊一冊に本好きの「好き」が詰まっています。

紀伊國屋書店では本年8月から10月にかけて、本冊子掲載の本を含む「おすすめ台湾本フェア」を全国30以上の店舗で順次開催します。

新型コロナウイルスの猛威もようやく収まりをみせ、台日の人の交流も再び盛んになって来ました。各地でのブックフェアが、台湾とその文化に触れていただくきっかけとなり、今後の台日交流・台日友好に繋がれば望外の喜びです。

2023年8月吉日

台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター  
株式会社紀伊國屋書店



おすすめ台湾本フェア開催情報や  
ご注文はこちらから→



価格表記は全て税込です。

# 紀伊國屋書店スタッフのおすすめ

紀伊國屋書店の全国に広がる店舗・営業部から本社各部署・大学ブックセンターまで、広く声をかけて「これが面白かった！」という台湾本を集めました。

\*書籍の紹介は刊行の新しい順です。



## 『妹々の夕ごはん 台湾料理と絶品茶、ときどきビール。』

猫田バナ

KADOKAWA | 2023年5月刊行 | 792円

ISBN 9784040749624

●婚活中だけれど、あまり上手くいかないひとり暮らしの30代女子の主人公。そこへ父親の取引先である台湾企業の娘さんが日本に留学するために、住むところがみつかるまでという条件でルームシェアすることになって…。ともに食卓を囲むうちにだんだん仲良くなっていき、ルームシェアも無期限に。お料理もおもしろいですが、お茶のうんちくがとてもおもしろいので、お茶だけ楽しみに台湾に行ってみたくります。 斎藤一哉 / 弘前営業所



## 『日台万華鏡 台湾と日本のあいだで考えた』

栖来ひかり

書肆侃侃房 | 2023年5月刊行 | 1,760円

ISBN 9784863855724

●なんとなく親近感を抱いていた国、台湾。もっと知りたいと思いつつ、踏み込まないままだった。「台湾と日本」について、白黒ははっきりすることのできない、昨今の歴史・社会・文化を取り上げながら「いま」の視点で語る本書は、台湾に造詣のない私でもワクワクしながら読むことができた。われわれ日本人のこともより豊かに捉えることができるようになる素晴らしいエッセイ集。美しい装丁も、じっくり味わいたい。 山田萌果 / 札幌本店



## 『飯麵湯 台湾小吃どんぶりレシピ』

口尾麻美

グラフィック社 | 2023年4月刊行 | 1,760円

ISBN 9784766134025

●作ってほしい台湾ご飯。初めのページで軽く前菜やスープを紹介した後に照り艶々な肉飯のページが始まる罪な一冊。各ページの美味しそうな飯テロ写真を堪能したらその後続く台湾屋台食堂のレポートで心の一休みができます。自分で作ることで前提のレシピ本であることを忘れて楽しむために読みふけてしまいました…。 森田史 / 加古川店

●食堂、屋台、夜市で食べる小腹メシ、「小吃（シャオチー）」。ページをめくると小さなどんぶりにぴったりのレシピが美味しそうな写真と共に載っていて、ご飯もの、麺類、汁物まで小さなどんぶりの世界が限りなく広がります。読み終える頃には「台湾」を旅した気分させてくれる一冊です。 粕谷しのぶ / 入間丸広店



## 『台湾漫遊鉄道のふたり』

楊双子 / 三浦裕子・訳

中央公論新社 | 2023年4月刊行 | 2,200円

ISBN 9784120056529

●登場する料理の画像を検索しながら読み進めた。日本人作家と台湾人通訳、ふたりの女性の間際ない食欲に「まだ食うの？」と慄きつつ、次々出てくる台湾の豊かな食文化に腹の虫が鳴きっぱなしになる。一方で時代は台湾が日本統治下の頃。ふたりの関係は気軽な「仲よし」ではいられない。相手を知りたいと思う気持ちも、空回りして消えてしまいたくなるような恥ずかしさすべて味わって、「親日」という言葉の扱いを考えさせられる。 山内茜 / 大阪第一営業部

●腹に妖怪を抱えた日本と台湾の食いしん坊たちが、古今東西、台湾グルメを求めて奔走する物語。と、数十ページしか読んでいない私ならこう書いていた。文字からにおいや音、とんでもない幸福な肉汁が感じられるのは読書の醍醐味であろうけれど、この物語は食だけではなく、日本人と台湾人女性の関係性を通して、かつて日本の植民地であった台湾の歴史と文化までを美味しく、時に苦く味わわせてくれる。最後に残る切なさも全て飲み干したうえで、私はこの本を勧めるならこう書きたい。「食いしん坊たちふたりの、友情の物語だ」と。 横山史葉 / 東京理科大学神楽坂ブックセンター



## 『台湾はおばちゃんであって?!』

近藤弥生子

大和書房 | 2022年12月刊行 | 858円

ISBN 9784479320395

●「おばちゃん」という響きが良いですね！人生の先輩でもあるさまざまなおばちゃんに関わり、台湾移住生活の中で自分自身を確立していく著者。生活や文化に密着したエッセイはとても想像を掻き立てられます。女性ならではの目線も楽しく、妄想旅のお供にもってこいです！  
三瓶直美／入間丸広店

●台湾に移住した著者によるエッセイ。仕事や結婚や出産や子育てを通して触れ合った台湾のバワフルなおばちゃん達とのエピソードは、日々の暮らしの中で何かと「シガラミ」を感じる事が多い私たちに「ラク」に生きるヒントを与えてくれます。  
琴田雅史／入間丸広店



## 『ふーみんさんの台湾50年レシピ 永久保存版』

齊風瑞

小学館 | 2022年11月刊行 | 1,870円

ISBN 9784093115223

●ふーみんさんこと齊風瑞さんは長い間オーナーシェフをされていました。食べる人の反応を近くで感じていた方のレシピ本ですから間違いありません。ページを開くと現れるメニューの数々は日本でも親しみのある中華料理で、どれも食欲をそそります。「だれがつついても同じようにできる」という心強いお言葉が添えてあり、作る意欲も湧いてきます。  
三瓶直美／入間丸広店



## 『オールド台湾食卓記 祖母、母、私の行きつけの店』

洪愛珠／新井一二三・訳

筑摩書房 | 2022年10月刊行 | 2,420円

ISBN 9784480837233

●観光ガイドや歴史の教科書には載らないような、台湾の一般家庭の食文化を中心としたノスタルジックなエッセイ集。匂いや味まで伝わってきそうな料理描写は、まるで自分が同じ食卓についているかのよう。時代の移り変わりで失われてしまった文化や、家族との思い出がさっぱりとした文章で淡々と書かれていて、あえて感情表現が出てこないからこそ強い思いが感じられます。  
植松野乃子／新宿本店

●日本での刊行にあたって書き下ろされた序文の中に、作家の乃南アサさんのお名前があった。知っている名前を目にした途端、未知の地であった台湾が突然、知り合いの知り合いが住まう土地、くらしい身近さになった。そこにきて著者が親しみのある語り口で幼少の思い出などを楽しそうに聞かせてくれるので、読み終わる頃にはもうすっかり台湾は知った場所になっている。なじみのない漢字名の料理たちも、原材料と調理法と思いついたようになんとなく風貌を想像してみたりするのが楽しかった。  
牧野美沙都／入間丸広店

●「食べる事は生きる為の最も身近にして、重要な営みである。だからこそ、丁寧に、誠実に…」。この本は単なるグルメエッセイではありません。祖母・母・娘、3人の台湾女性の、台所から、料理を通じて語られる、自分史であり家族史でもあるのです。数々のエピソードの中に日本との繋がり、台湾の歴史も垣間見ることができます。読み終えた時、「洪さん、書いてくれてありがとう」そんな気持ちになる1冊です。  
竹村陽子／入間丸広店



## 『台湾書店百年の物語 書店から見える台湾』

台湾獨立書店文化協會／フォルモサ書院・訳

エイチアンドエスカンパニー | 2022年9月刊行 | 2,420円

ISBN 9784990759698

●皆さん、書店はお好きですか？大型書店、町の本屋さん、独立系、古書店、他業種併設型など、日本には様々な書店があり、それぞれに社会的な要請や使命、歴史があります。台湾でも同様に、熱い思いを持った人々が書店を開き、知の普及に貢献してきました。台湾では古本販売が多く、書店それぞれの独自性が際立っているのも面白いところです。ぜひ、あなたのお気に入りの本屋さんを見つけてみてください（筆者は有河book推し！）  
小山大樹／北海道営業部



## 『台湾鐵路千公里 完全版』

宮脇俊三

中央公論新社 | 2022年8月刊行 | 1,100円

ISBN 9784122072510

●今でこそ市民権を得た鉄道ファンという存在ですが、所は80年代台湾、鉄道利用者のほとんどは市井の生活者。周囲から投げかけられる訝し気な視線にさらされながらも台湾鉄道全線踏破を目指す旅の記録が綴られています。淡々と、しかしディテールにこだわり出来事を子細に記録していく筆致からは、車窓から吹き込む熱風やスコールのにおいまで感じられるよう。鉄道ファンにも、そうでない方にもおすすめです。  
小平裕介／上智大学四谷ブックセンター



## 『はじめてなのに現地味 おうち台湾菜』

沼口ゆき

主婦の友社 | 2022年8月刊行 | 1,595円

ISBN 9784074516599

●少ない手順で作れる台湾料理のレシピ本。朝・昼・晩などの時間別、おうちや外食などの場所別、野菜やスープ、おやつなどといったカテゴリ別で紹介されているので、どれを作るのか選びやすい。日本にある調味料で作れるものが紹介されているので敷居が低く作りやすいのもポイント。  
望月大輔／入間丸広店



## 『「静かな人」の戦略書 騒がしすぎるこの世界で内向型が静かな力を発揮する法』

ジル・チャン／神崎朋子・訳

ダイヤモンド社 | 2022年6月刊行 | 1,650円

ISBN 9784478111475

●台湾出身で現在も台北を拠点に活躍している女性実業家による、「内向型」のビジネス指南書。アメリカでの学生経験、社会人経験に裏打ちされた理論には非常に見識の深さが読み取れるが、文化的なポイントは冒頭で日本のマンガが登場する点。国外の方のビジネス書であるにもかかわらず、日本文化が出てくることで、ビジネス書でありながら、他にはない親近感を覚えるはず。「外向型」のルフィや孫悟空になれなくても活躍できる方法を是非習得してみたいかが？

横松文周／東京営業本部第三営業部



## 『緑の歌 一収集群風一』

高妍

KADOKAWA | 2022年5月刊行 | 858円(上巻)・880円(下巻)

ISBN 9784047370777 (上巻)

9784047370784 (下巻)

●表紙のイラストにひかれて、「ジャケ買い」しました。全ページとても丁寧に描かれていて、風景も人物も大好きになります。作中には台湾に輸入された日本文化として、細野晴臣・はっぴいえんど・村上春樹らが登場します。私が学生時代にそれらを楽しんだように、登場人物たちも青春時代に音楽と小説と恋に熱狂した…。ちょっとこそばゆいくらいドキドキが止まりません！  
鈴木郁美／イトーヨーカドー川崎店

●台湾で暮らす少女、緑(リュ)は若井俊二の『リリイ・シュシュのすべて』やはっぴいえんどの『風をあつめて』などを浴びながら日々を過ごしている。台北に流れる風の音や潮のべたつきさえも感じられるほどの描写力に息を呑む。漫画から立ち昇る台湾の空気を吸い込みながら、馴染みのある日本の小説や音楽が脳内にリフレインされ、緑の目線になって葛藤や喜びに触れる。ノスタルジーだけでなく、先を見据える勇気も与えてくれる唯一無二の作品です。  
鳥羽遼太郎／新宿本店

●舞台は、台北と東京。繊細で緻密なタッチでありながら、主人公の少女が生活している場所の空気と温度がしっかりと伝わってきます。主人公の不安定に揺らぐ心にそっと寄り添う音楽と本。ときめくような新しい出会いとほんのり苦さの残る別れ。この物語はどこか懐かしく、共感をもたらしてくれると思います。  
新井雅菜／入間丸広店

●作品読後の感想が「村上春樹作品を絵にしたらこんな印象か？」ということ。そんなこと思っていたら本当に村上春樹著『猫を養って』の文庫版の表紙を描いちゃったのが台湾の著者・高妍(ガオ・イェン)。繊細で情緒的な描写をみればそれも納得である。台湾人の少女の青春と日台の文化交流はどこか淡々として空虚、しかし不思議と魅力的だ。国や世代をこえる描写を味わえる。  
生武正基／店営業課



## 『蝶のしるし 台湾文学ブックカフェ1 女性作家集』

呉佩珍、白水紀子、山口守・編／白水紀子・訳

作品社 | 2021年12月刊行 | 2,640円

ISBN 9784861828775

●恋愛、結婚、家族、セクシャリティなど様々な題材について紡がれた台湾の女性作家による短編集。そのどれもが身近に聞いた・感じた事のある感情で、作家陣全員と友達になれるのではと錯覚するぐらいに物語にのめりこみました。作中に出て来る台湾ならではの文化・社会環境はもちろん魅力的です。たまに出て来る日本語も「えっ!この言葉が?!」と、驚きとともにどこか微笑ましく感じられました。装丁も素敵です。

玉本千幸／新宿本店



## 『私がホームレスだったころ 台湾のソーシャルワーカーが支える未来への一歩』

李琺萱／台湾草心慈善協会・企画／橋本恭子・訳

白水社 | 2021年7月刊行 | 2,530円

ISBN 9784560097939

●ホームレスって特殊な人間になるものでしょ? そんな思い込みがいかに現実と異なっているか、ホームレスと私たちの生活がいかに地続きでつながっているか、この本は実情を伝える渾身のルポ。収められた台湾のホームレス10人のライフヒストリー。「ホームレス」という言葉では一括りにできない一人一人が多様な「人間」であることを知った。ホームレスへのまなざしを変える力のこもった労作。

伊藤佑太郎／福岡本店



## 『台北プライベートアイ』

紀蔚然／船山むつみ・訳

文藝春秋 | 2021年5月刊行 | 1,980円

ISBN 9784163913674

●パニック障害を抱える、私立探偵の呉誠。弱気で少し頼りない一面もあるけれど、その人柄が等身大で心地良い。“完璧主義で隙のない人間”という従来のハードボイルド探偵のイメージを覆す、新しい時代の探偵の誕生! ああ早く続編が読みたくてたまらない。

池田匡隆／ゆめタウン下松店

●大学教授で劇作家の主人公呉誠は、突然仕事を辞めて私立探偵に。初の事件を解決して浮かれていたのも束の間、何と連続殺人の容疑者にされてしまう! 上質な台湾製ハードボイルド。連続殺人犯との息詰まる攻防に、毒舌家で偏屈だが憎めない呉誠や、いい意味で警官らしくない警官の小胖、愛妻家すぎるタクシー運転手の添来などのユニークなキャラクターたち。台湾の世相や文化も色濃く描かれ、その熱気が身近に感じられます。

田口郁美／ライブラリーサービス部

●「台湾×ミステリ×ハードボイルド」これらの要素が並んだら絶対に面白いだろうなと思いました。仕事も家庭も失った中年男が探偵業を始め、気が付いたら連続殺人事件に巻き込まれることになります。台湾の歴史や人間論、仏教など様々な要素があふれていますが、個性的なキャラクターたちの会話や目まぐるしく変わる展開が読者を飽きさせません。これからは台湾ミステリもチェックしないといけないですね。

玉本千幸／新宿本店



## 『複眼人』

呉明益／小栗山智・訳

KADOKAWA | 2021年4月刊行 | 2,420円

ISBN 9784041063262

●衝撃だった。こんな小説が存在するんだ。神話的な島から流されてきた少年、家族を失った女性、先住民のバー店主…様々な過去を抱えた人々に襲い掛かる、人間による環境破壊の産物。ファンタジーで神話的な物語は、異常気象などの自然科学的要素や台湾先住民族の歴史まで取り込んで、生きるものたちの喪失と再生に結び付けていく。バラバラだった物語の断片がひとつの世界を映しだすとき、心が強く揺さぶられた。虚しくて、でも何かしなくちゃという思いだけは強く残って。

近江菜々子／新宿本店

●消えた家族、失われた故郷、変えようのない過去。喪失と悲嘆に塗りつぶされた空虚な世界の輪郭を、一本一本丁寧になぞるように、静謐な物語が紡がれる。眼前に広がる海が波打ち、大地に聳える山に囚われ、人間の営みはいとも容易く損なわれる。それでも続く色彩を欠いた生活を、やさしく描き出す言葉の連なりが、その世界に少しずつ色を加えていく。

中島宏樹／横浜店



## 『台湾生まれ 日本語育ち』

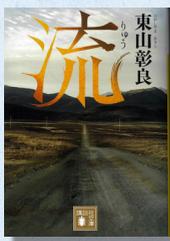
温又柔

白水社 | 2018年9月刊行 | 1,540円

ISBN 9784560721339

●日本語・中国語・台湾語…幼い頃から3つの言語に囲まれて育った温又柔さんのルーツを探る傑作エッセイ。街を歩いていて、ふと聞こえる言葉に感じるノスタルジー。故郷に国境はなく、それは万人に普遍的なものなのだと強く感じた。日本エッセイスト・クラブ賞受賞作。池田匡隆／ゆめタウン下松店

●「台湾生まれ日本語育ち」この一言を堂々と口にするのに、どれだけの葛藤を乗り越えてきたのだろう。日本語・台湾語・中国語…3つの言葉の狭間で「自分自身の言葉」を獲得しようともがく温さんの姿に、心打たれずにはいられない。何気なく使っている「言葉」の裏には、無数の人々の生が息づいている。それはもちろん同じ国の人とは限らない。それをバトンのように誰かに手渡している…自分もその連鎖の一員なのだと思感させられた。決して関係のない話だとは思わないでほしい。たとえあなたが東京に生まれ標準語を話し「マジョリティ」としての世界しか知らないとしても。佐貫聡美／和書仕入課



## 『流』

東山彰良

講談社 | 2017年7月刊行 | 968円

ISBN 9784062937214

●台湾の雑然としたディテールの描写から70年代の台湾の雰囲気とまわりつくような湿気が伝わってくる。「目に浮かぶよう」に加えて雑踏の町やそこに生きる人々が「匂い立つ」という感覚すら立ちあがる。体験してもない「古き良き台湾」を感じることができる。さらに中台の激動の歴史と価値観、主人公の青春など盛りだくさん。ミステリ作品の枠に収まらない濃くて壮大な面白さ。生武正基／店営連携課

●いまだ戦争が、過去の歴史ではなく生きた記憶として語られていた1970年代。新しい時代を告げる清新な空気と、社会のいたるところに埋め込まれた変えようのない痕跡とともに生きることが、台北に暮らす人々の日常であった。その全てを背に受けながら、自らの手で未来を切り開こうと主人公は道無き道を歩んでいく。この物語を読み終えたとき、私たちは彼が辿った人生の足跡に強く心を打たれるだろう。中島宏樹／横浜店



## 『鬼殺し』

甘耀明／白水紀子・訳

白水社 | 2016年12月刊行 | 各3,080円

ISBN 9784560090480 (上巻)  
9784560090497 (下巻)

●台湾は多言語、多文化の社会です。親日と言われますが、その実態も決して一面的ではありません。混沌とし、日中何れに対しても愛憎入り乱れる、日本統治時代の(そして今につながる)台湾の雰囲気を味わう事が出来る秀作。ガルシア・マルケスを彷彿とさせるストーリーはめまいがするほどですが、ラストはとても清たく、心に残ります。

武田永季／金沢営業部



## 『路』

吉田修一

文藝春秋 | 2015年5月刊行 | 792円

ISBN 9784167903572

●日本企業が台湾へ新幹線を通す、というストーリーの中で描かれる、台湾で暮らす人々と、主人公を含めた日本企業の人々との温かな交流、情熱。国と国との関係が、人と人との関係によって作り上げられていくことを実感します。そして、台湾には行ったことはないのに、読んでいて台湾の空気を感じる。読み終えたとき、熱い気持ちがかみ上げると共に、朝日を浴びるようにすがすがしい気持ちになれる。そんな作品です。以前、ドラマも作成されましたが、原作ならではの空気感を、ぜひ多くの方に感じていただきたいです! 武藤朋／雑誌部

●NHKでドラマ化もされた吉田修一の感動作です。新幹線事業を背景に主人公の日本人春香と台湾人の人豪、日本統治下に生まれた人等の長きに渡る日台の人々の交流が描かれています。著者による台湾の描写も素晴らしい、台湾が舞台の小説としておすすめの1冊です。久津間百代／人間丸書店

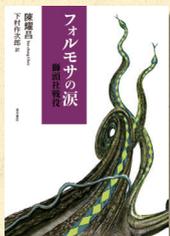
# 台湾文化部 (文化省) のおすすめ

台湾の文化部(文化省)は、台湾における文化行政を司ると共に、台湾文化センター等の海外事務所を通じて台湾文化の国際的普及に取り組んでいます。

文化部おすすめ作品に目を付け、邦訳刊行に導いて頂いた各出版社の担当編集者に「押し」コメントを頂きました。

\*書籍の紹介は刊行の新しい順です。

## 『フォルモサの涙 獅頭社戦役』



陳耀昌／下村作次郎・訳  
東方書店  
2023年8月刊行  
2,640円  
ISBN 9784497223142

●本書は清朝政府の台湾統治政策「開山撫番」のもとで起こった最初の原住民と漢族の戦争「獅頭社戦役」を描く歴史小説です。大亀文魯邦の原住民にとって、清朝の精鋭部隊「淮軍」は紛れもない侵略者ですが、原住民も淮軍とともに、国、土地、家族、誇りを守るために悩み闘い死んでいきました。そして歴史に埋もれ忘れ去られたのです。邦題の「涙」には、彼らの思いだけでなく、著者の哀悼の意も込めました。 東方書店／担当編集・I

## 『子供はあなたの所有物じゃない』



吳曉樂／木内貴子・訳  
光文社  
2022年10月刊行  
1,980円  
ISBN 9784334914936

●台湾の苛烈な家庭教育、歪んだ親子関係の実態を描いた衝撃作。学歴社会に翻弄され、子供の教育に必死になるあまり子供を追い詰めてしまう親。それは日本も同じで、他人事ではありません。それぞれの家庭の子供の苦しみ、親の苦しみを家庭教師という立場で切り取る著者の視点は、教育の意味と本質を問いかけてきます。 光文社／担当編集・M

## 『綺譚花物語』



星期一回収日・漫画／  
楊双子・原作／黒木夏兒・訳  
サウザンブックス社  
2022年9月刊行  
1,760円  
ISBN 9784909125378

●金漫賞受賞作家、星期一回収日の才能が溢れる一冊。日本時代と現代、二つの時代を描く至上の百合漫画。少女たちの繊細な心模様が、淡く切なく、そして時に逞しく！描かれている。数々の胸キュン要素の裏にある、台湾の歴史や文化、社会、人々の暮らしも丁寧に表現。楊双子の作話・構成力にも感服するばかりだ。 サウザンブックス／古賀一孝

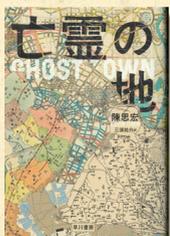
## 『真の人間になる(上・下)』



甘耀明／白水紀子・訳  
白水社  
2023年8月刊行  
各2,640円  
ISBN 9784560090862 (上巻)  
9784560090879 (下巻)

●1945年夏、日本人も犠牲となった「三叉山事件」をモチーフに、ブヌ族の少年の成長を描き、台湾・中華圏の文学賞を制覇した感動の大作。野球少年のハルトは同族のハイヌナンと一緒に花蓮の中学校に進学して、本格的に甲子園出場を目指します。また、生活のなかで日本人、漢人、他の原住民の学生たちと接することで、ブヌ人としての自覚を強くし、ハイヌナンに友情以上の思いを抱くように…。ハルトが大切な人を失った瞬間を回想するシーンは涙がこみあげてきます。台湾の美しい自然を背景に、その土地で生きてきた人々の歴史と記憶を神話的な物語としてハルトに語る祖父の言葉が全篇に散りばめられ、心を強く揺さぶられます。それは「生」と「死」に結びつく普遍的なものであり、さまざまな痛みや喜びを呼び起こすものだからです。ウクライナ戦争のさなかの今、多くの人に読んでほしい傑作です。 白水社 編集部／杉本貴美代

## 『亡霊の地 GHOST TOWN』



陳思宏／三須祐介・訳  
早川書房  
2023年5月刊行  
3,850円  
ISBN 9784152102393

●みんな優しく、ご飯も美味しくて最高！日本人が台湾に対して持つイメージではないでしょうか。台湾の田舎に暮らす大家族のモノローグを中心に構成された『亡霊の地』を読んでみてください。住む場所関係なく、老若男女問わず、人間みんな生きるってしんどいんだ、って読後しみじみと再認識できます。内容は重たくも、軽快でリズムミカルな読み口でぐいぐいと読ませる、台湾の熱っぽさ、空気感に没頭できる最高に面白い小説です。 早川書房 書籍編集部／吉見世津

## 『台北野球倶楽部の殺人』



唐嘉邦／玉田誠・訳  
文藝春秋  
2022年8月刊行  
1,760円  
ISBN 9784163915869

●あの川上哲治と「赤バットの川上、青バットの天下」と並び称された天下剛は、じつは台湾の旧制中学出身でした。著者の唐嘉邦さんはこの天下の経歴に目を付けて、日本統治下の台湾を舞台に巧緻なミステリを書き上げました。さらに事件の裏には最後の抗日武装蜂起・西來庵事件の影が……。島田荘司氏も物語の背景にある日本統治下の台湾の悲劇は「日本人に記憶されるべき重大な史実である」と指摘する、社会派ミステリの傑作です！

文藝春秋 文春文庫部／荒俣勝利

## 『向日性植物』



李屏瑤／李琴峰・訳  
光文社  
2022年7月刊行  
1,980円  
ISBN 9784334914783

●台湾の高校生たちが夢中になった青春小説。台北の女子高を舞台に、先輩に憧れる「私」と少女たちの淡い関係が誠実に描かれる傑作です。苦しみも幸せもすべてが瑞々しく描写され、この世界をずっと読んでいたいと思わせる李琴峰さんの薫り高い翻訳も秀逸な一作。 光文社／担当編集・M

## 『[図説]台湾の妖怪伝説』



何敬堯／甄易言・訳  
原書房  
2022年6月刊行  
3,520円  
ISBN 9784562071845

●台湾にも妖怪がいるのか！という驚きから手に取った本書。日本とは少し違えけれど共通したところも大いにある妖鬼神怪が見渡せる。さらに、こんな怪異がこんな場所に現われるよ、という記述だけで終わらないのが著者の書きぶり。丁寧な現地調査と貴重な文献資料で、台湾の人々が生活のなかで大切にしていること、避けていること、文化的・歴史的記憶にまで迫っていく。ちなみに、私がとても気になっているのは、台中の空をさまよう幽霊船です。

原書房 編集部／善元温子

## 『都市残酷』



ワリス・ノカン／  
下村作次郎・訳  
田畑書店  
2022年3月刊行  
3,080円  
ISBN 9784803803938

●ワリス・ノカンは1961年生まれ。私とまったく同年である。台湾と日本。同じ時代を生きながら、これほどまでに異なった人生と社会を眼前させるこれらの小説群は、翻って我が身を思うとき、大いなる戒めとなると同時に、これまでに味わったことのない新しい世界観をも与えてくれる。 田畑書店／大槻慎二

## 『ブラックノイズ 荒聞』



張渝歌／倉本知明・訳  
文藝春秋  
2021年8月刊行  
1,980円  
ISBN 9784163914176

●「紅い服の少女」「返校」「呪詛」など、近年の台湾ではホラー映画が大ブーム。いずれも民間伝承や少数民族の宗教・文化と、社会問題や現代史の中の悲劇をクロスオーバーさせた傑作です。本作はそれらの小説版とも言える作品。〈台湾語に日本語が混ざった妖しき幻聴。「ミナコ」とは何者？事件の裏には日本統治時代の悲劇が隠されていた！〉富士山より高い玉山（新高山）の密林を彷徨うクライマックスをぜひお楽しみください。

文藝春秋 文春文庫部／荒俣勝利

## 『溺死した老猫 黄春明選集』



黄春明／西田勝・編訳  
法政大学出版局  
2021年5月刊行  
2,860円  
ISBN 9784588490392

●2021年に亡くなられた西田勝氏（文芸評論家・平和運動家）が、親交の深い作家・黄春明氏の代表的短篇作品をみずから翻訳したアンソロジー。台湾や満洲など、旧植民地文学の研究・発掘を主導した西田氏による最晩年の作品の一つであり、戦後の台湾作家たちとの友情の結晶でもあります。カバーは黄春明氏自身によるちぎり絵。近代民衆文学の王道ともいえるような、人情の機微にふれる作品群を収録しています。 法政大学出版局 編集部／郷間雅俊

## 『冥王星より遠いところ』



黄崇凱／明田川聡士・訳  
書肆侃侃房  
2021年9月刊行  
2,090円  
ISBN 9784863854840

●闘病中の母を持つ国語教師の「俺」と、入院中の母に付きそう小説家志望の「俺」。互いの夢の中で行き交い、ネルーダの少女とデートを重ね、若き頃の恋人を思う。母との別れが刻一刻と近づく中、俺と俺の境界はくずれてゆく。太陽系から外された冥王星が遥か遠くにいったように、母との記憶、大切な時間もいつか忘れてしまうのだろうか。俺と俺との曖昧模範な時間が心地よく、ただ漂っていたくなる不思議な小説。 書肆侃侃房／池田雪

## 『眠りの航路』



呉明益／倉本知明・訳  
白水社  
2021年9月刊行  
2,640円  
ISBN 9784560090695

●呉明益の長篇デビュー作。日本と深く関わる重要な作品です。台北で暮らす「ぼく」は、数十年に一度の竹の開花を見るために陽明山に登った日から睡眠に異常が起きていることに気づきます。「ぼく」の意識は、やがて太平洋戦争末期に神奈川県の高座海軍工廠に少年工として十三歳で渡った父・三郎の人生と交差し、追憶していく…。三郎が暮らした海軍工廠の宿舎には、当時、三島由紀夫も勤労働員され、台湾から来た少年工と交流し食事をつくってあげるなどしていました。その事実を著者が調べ上げ、物語に生かしています。三島は「平岡君」という本名で登場し、台湾の少年工に物語を話して聞かせ、皆から兄のように慕われていたことや、敗戦の玉音放送を聴く瞬間の様子、そのあとの変化など、三郎の目を通して詳細に描写されているところも注目。 白水社 編集部／杉本貴美代

## 『リングサイド』



林育徳／三浦裕子・訳  
小学館  
2021年2月刊行  
1,980円  
ISBN 9784093865883

●白状します。私はプロレスについてまったく詳しくありませんでした。なのに本書を担当した理由。ひとえに心を掴まれてしまったからです。プロレスと出会ってしまった彼の地の人々の人生ドラマに――。本書に登場するのは台湾の小都市・花蓮に暮らす、パツとした人間ばかりです。安ホテル受付の大学生に、旅行会社をリストラされた初老男性…。プロレスに魅せられた彼らが織りなすチャーミングかつ、ちょっぴり切ない物語に、どうぞあなたも出会ってください！

小学館 文芸編集室／柏原航輔

## 『次の夜明けに 下一個天亮』



徐嘉澤／三須祐介・訳  
書肆侃侃房  
2020年9月刊行  
2,090円  
ISBN 9784863854161

●すぐ隣の台湾について、私たちはどれくらい知っているだろう。激動の台湾現代史に翻弄される親子三代の確執を軸に、戦前戦後における台湾と日本の関係、セクシュアルマイノリティの現実、夫婦だけの秘密など、あらゆる要素が盛り込まれた物語。現代台湾の複層的な現実を描きながらも、これは世界中の人々が抱える生きることの困難さと諦念、そこからの脱出のヒントが隠された物語だと思う。

書肆侃侃房／田島安江

# 台灣 紀伊國屋書店 スタッフ のおすすめ

中国語を一通り勉強した。さて、台湾の原書を読んでみたいけど何から手をつければ？

台湾紀伊國屋書店の本好きスタッフに、手に取りやすいマンガ・文学・人文分野から、「これ面白い!」を選んでもらいました。最初の一冊のご参考に!

\*書籍の紹介は刊行の新しい順です。  
\*価格は2023年7月時点での概算価格です。  
為替レートにより変動しますのでご承知おき下さい。

## 『南方，寂寞鐵道 我們在時光列車上相遇』



蕭菊貞  
大塊文化  
2023年6月刊行  
4,682円  
ISBN 9786267206669

人文

●蕭菊貞監督は2017年以降、中央山脈東側の南迴線のビデオ撮影を続け、ドキュメンタリーフィルム《南方，寂寞鐵道》を製作。そしてこの屏東と台東を結ぶ南迴線は2020年、ついにディーゼル車両の運行を正式に停止した。監督が撮影過程と取材内容をまとめたのが本書である。本書には鉄道電化前の沿線の美しい風景、そして台湾人とこの鉄道との物語が書き留められている。張瑋／中文部

## 『走向內在 四國通路、聖雅各朝聖道、AT&PCT・三大洲萬里徒步記』



Josie  
大塊文化  
2023年2月刊行  
3,127円  
ISBN 9786267206713

人文

●世界の有名な4つの長距離トレイル(四国通路、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路、アパラチアン・トレイル、パシフィック・クレスト・トレイル)の踏破記録。 実用的な情報を提供するだけでなく、旅の途中で遭遇した出来事も描いており、旅に出ようという人には参考書としても読めるし、居心地のよい安全圏から飛び出す勇気のない人には旅文学としても楽しめます。張瑋／中文部

## 『守娘 (上+下) 完』



小猫猫  
蓋亞出版  
2022年10月刊行  
3,674円  
ISBN 978777708605

漫画

●富家の娘である潔娘は婚期に達するも、幼少より奔放な彼女は纏足もしておらず、嫁に行くつもりもない。兄嫁を見ていても、嫁いでは男児を産めないことに日々苦しまばかりで、女の子を産んだ直後にさえ、次には男児が産まれるようにと「換胎」という民間治療まで施されるのである。ある日外出の折、潔娘は見えない靈に憑かれ、また思いもよらず不思議な女道士に出会うことになるが…。清朝時代の台湾の女性に対する蔑視や陋習からは、女として生まれる事の虚しさややるせなさを感じさせる。やや重いテーマだが、時代背景や服飾史に関する作者の周到な調査に、オカルトな題材を組み込んだ事で、とても内容が解り易くなっており、ぜひ皆さまにお薦めしたい一作です。王秀分／海外部

## 『採集人的野帳 (01) - (03)』



英張  
蓋亞出版  
2021年1月～2023年2月刊行  
2,032円(01・02)・2,189円(03)  
ISBN 9789869957939 (01)  
9789863196044 (02)  
9789863197355 (03)

漫画

●1924年、今の台北植物園の内に、台湾最古にして最も豊富な資料を所蔵する植物標本館「せきようかん 腊葉館」が落成しました。台湾原生植物の調査が盛んになった年代で、採集家たちがどのような苦労を経て葉草や草花を標本へと作っていったのか。採集から鑑定、研究と記録、一つ一つの標本を作るのに、採集家や研究者の溢れんばかりの夢や熱量が垣間見えます。本作品では、そのような植物採集家の知られざる日常を描き、大正13年の台湾原生植物研究の大躍進時代へいざないます。

何安琪／微風店

## 『素直設計 Book Design 楊啟巽作品集 1996-2022』



楊啟巽  
大辣  
2023年2月刊行  
15,633円  
ISBN 9786269685677

人文

●著者が自ら装丁した本のデザインを一冊にまとめ、デザインした当時のコンセプトやその見方を解説。書店で働く者としては、この一時代の本の出版史をあらためて眺めるよう。この本を通して、心動かされる本とのあらたな出会いがあるといいなと思います。

張瑋／中文部

## 『秋刀魚變溫柔了』



盧怡安  
重版文化  
2022年10月刊行  
3,283円  
ISBN 9786269548583

散文

●遊び心ある文章に隠れた奥深さ：のんびりゆったりとした文章で日常の食を描いた本書は、行間にたくさん料理のコツを隠し、本書ならではのレシピも加え、気楽に読書を楽しむと同時に、驚きを解き明かす喜びも味わうことができます。穏やかなお茶の味わい、立ち上る焼き魚の匂い、野菜を炒める熱気、鮮やかな表現に思わず喉が鳴りそうです。日常を信仰に昇華させ、家庭料理がもたらす安らぎと趣。著者が綴る言葉の魅力は、自身の目を通して読むことでより一層その独特な癒しの力を感じることができるでしょう。

張倫瑋／微風店

## 『異人茶跡 (01) - (05) 完』



張季雅  
蓋亞出版  
2013年7月～2022年7月刊行  
1,720円(01)・1,876円(02)・  
2,032円(03)・2,189円(04)・  
2,345円(05)  
ISBN 9789863190349 (01)  
9789863191766 (02)  
9789863193937 (03)  
9789863194880 (04)  
9789863196600 (05)

漫画

●1865年、19世紀頃の台湾はいかにして烏龍茶を世界へと広めていったのでしょうか？本作品では茶葉の栽培、製茶、鑑定、包装出荷までを描き、台湾の烏龍茶が普及していく様子を見ることができます。お茶商売を思い至った英国商人トッドと厦門の買弁李春生らや、茶農家との協力、艋舺地方の勢力争いなど、「ご当地感」満載な作品です。血なまぐさい過激な内容は無く、登場人物のやり取りや感情変化が鮮明に描かれている、とてもおすすめできる一作です。

何安琪／微風店

## 『揚子堂糕餅舖』



光風

蓋亞出版  
2022年7月刊行  
2,345円  
ISBN 9789863196518

小説

●笑美子の「ごめんなさい」の一言で、京都の和菓子店でのワーホリを引揚げ、地元台中に帰り叔父のお菓子屋で働く事になった徐安群だが…。この本は太陽餅と和菓子をめぐり、優しく温かみのあるタッチで台湾と日本の菓子職人の世界を描き、伝統の継承と個々の夢の追求は相補って成り立つもので、どちらも粘り強さと決意が必要だという事をゆっくりと伝えてくれます。たとえ誰であれ、どんな道であれ、自分の人生の夢を懸命に追い求める事こそが大事であると教えてくれる、迷いから抜け出し、安定へと向かうための心の糧になる一作です。

劉美芳／中文部

## 『一周七天，晴天雨天』

寫給每一個為生活努力的你」



yoyo

今周刊  
2022年5月刊行  
2,814円  
ISBN 9786267014523

散文

●人気インスタグラマーによる、日常生活の見方を変える癒しのメッセージ集。この本には華やかな言葉や美しい言い回しはありませんが、心に響く言葉をたくさん見つけることができます。年を重ねて振り返り思うのは、「青春の素晴らしさは後になって分かるもので、まだまだ時間はたっぷりあると思っているうちに、突然、もうとっくにその頃には戻れなくなっている事に気付かされる」ということ。日々の生活には好い日も悪い日もあり、自分の課題は自分で対処し、たとえつらい事があっても自分を癒やすことを忘れずに、勇気を持って日常の生活に立ち向かわなくてははいけません。

劉美芳／中文部

## 『送葬協奏曲』



韋蘿若明

蓋亞出版  
2020年2月刊行  
1,876円  
ISBN 9789863194668

漫画

●思いがけず納棺師の仕事に就いた主人公の林初生。初めは接待業務くらいと思っていましたが、実際は葬儀に深く携わることになります。一つ一つの依頼案件を経て、初生は少しずつ成長していき、依頼主と家族の間の絆や思い、死に対するそれぞれ異なる考え方を知っていきます。終章を迎えても、初生は自身の家族とのわだかまりを解決できないままですが、生きていればきっと可能性はあるはず。台湾の葬儀文化について知りたい、あるいは身と心を癒したい方には、おすすめの漫画です。

王悅書／海外部

\*邦訳『葬送のコンチェルト』串山大・訳 KADOKAWA  
2023年6月刊行 880円 ISBN 9784046824257

## 『小丑醫生 最後一次說再見』



柯宥希(顆粒)・漫画/  
逢時・作

尖端漫畫  
2020年1月刊行  
1,720円  
ISBN 9789571072494

漫画

●重病の妹が亡くなる瞬間、傍にいてあげられなかった17歳のヒロインは、妹がノートに残したメッセージを見て自責の念に苦しんでいたが、病院で子供達を楽しませるクリニックに出会い、その道を目指す事を決心する。実際の特殊専門的な職業を元に描かれたもので、私もこの作品を読ままでは、こんな仕事があるなんて全く知りませんでした。これはホスピスの子供たちへの心のケアであり、その短い一生の中で、最後の時をより多くの笑顔とともに過ごせるのだとしたら、子供たちにとってのささやかな幸せと言えるのかも知れない。最後の「さようなら」をどう伝えればいいのかを問いつけるこの作品は、読んだ者の涙をそそります。すっきりと透明感のある絵柄に、恋愛要素もあり、美男美女も登場し、それでいて少し特殊なテーマの漫画を探している方におすすめです。

蔡依庭／海外部

## 『如果理想生活還在半路』



柯采岑

精誠資訊  
2021年7月刊行  
2,970円  
ISBN 9789865101565

散文

●私たちは変わらない日々を各々過ごしていく中で、これは自分が望んだ生活なのだろうか？生活とはなんだろうか？と考えてしまう事があるでしょう。たとえ簡単な生活でも、作者の優し力強い言葉で描かれたさまざまな体験を経て、少しずつ成長して、少しずつ自分のことを好きになれる。生活とは、自分の愛する物事から、流れゆく時間を十分に楽しみ、大切に思う全てを慈しむ事を学ぶ事なのです。

張倫璋／微風店

## 『用一頓飯的時間旅行 享受美食，把小日子過得閃閃發亮』



高靜芬

遠流  
2020年8月刊行  
2,814円  
ISBN 9789573288565

散文

●本作は、作者の溢れんばかりの情熱で描かれる食事の経験や豊富な知識によって、まるで共に食卓を囲んでいるかのように思えます。食事のひとつときに、味や匂いを楽しみ、舌鼓を打つ。お腹を満たせば視界も開け、本作に込められた哲学も加え、知識の蓄えとなる。「お気に入りのキッチンカーに出会えたら、機会を逃さず、しっかりと味わうに限る。そうすればこの先、再び巡り合うことが無くとも、後悔はない。人生もきっとそういうものなのでしょう。」「同じお米でも、手間をかけて炊けばより美味しくなる。同じ日々でも、心を込めて過ごせば、より豊かなものになるでしょう。」

劉美芳／中文部

## 『大城小事 (01) - (05) 完』



HOM (鴻)

時報  
2015年8月～2019年7月刊行  
2,110円(01-02-03)・  
2,345円(04)・2,501円(05)  
ISBN 9789571363493 (01)  
9789571364506 (02)  
9789571366050 (03)  
9789571376899 (04)  
9789571378299 (05)

漫画

●「都会の片隅で起こるこれらさまざまな小さな物語は、いずれもあなたと私の共通の人生経験かもしれない」——愛、友情、家族愛に関するささやかな出来事を積み重ね、ネット上での正義感や多様な家族構成などの問題も抱える台北の都市風景を描きます。このシリーズは全5巻から成り、生活、仕事、愛情などを含むさまざまな物語で構成されています。これらの物語は、あなたや私の身の周り、あるいは名も知らぬ街角で今まさに起こっている事かも知れません。そこにはこの社会に対する作者の期待も感じられます。気軽に読めると同時に、深く考えさせられる漫画です。

吳玉晴／海外部

## 『傷心咖啡店之歌 (50萬冊紀念版)』



朱少麟

九歌  
2014年11月刊行  
2,736円  
ISBN 9789574449644

小説

●一度本を開き読み始めれば、瞬間にその世界に引き込まれ、まるで自分も作中の一人になった気持ちになります。作者の描く人物はそれぞれ個性豊かで、読み進むうちに、共に迷い、共に失い、共に探し求める中で、自分が本当に望んでいるものはなんだろうか？必要としているものはなんだろうか？と作中の彼らと共に考えるきっかけを与えてくれます。またこの本を読むのは、長い旅をしているかのようで、旅路の途中ではしきりと行き先を思い描き、旅の終わりにようやく、大事なものは最後に得られた答えではなく、道すがらの風景であると思うことが出来るでしょう。

張倫璋／微風店

## 台湾文化センターのご案内



©illustration by 小猿猪

東京虎ノ門にある台湾文化センターでは、台湾文化の発信基地として、ギャラリー、図書室、イベントスペースを完備しており、これまで台湾アニメ、漫画、文学、アートを紹介する企画展や映画上映会、トークイベント、文化体験講座など、さまざまな切り口から台湾文化を肌で感じられる文化交流の場を提供しています。来館者のどなたでも自由にご利用いただける図書室は、数多くの台湾関連書籍を収蔵しており、一度訪れれば多角的な視点から台湾を見つめることができるでしょう。

ぜひ、当センターで最新の台湾カルチャーに触れ、台湾思索にふけてください。

MAP



### 台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

開館時間：10:00—17:00（月曜日～金曜日）

※土、日曜と祝祭日はイベント開催時のみ開館いたします。

TEL：03-6206-6180

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-12 虎ノ門ビル2F

発行：台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター / 企画・編集：紀伊國屋書店 / デザイン：磯田真市朗 二〇二三年八月吉日発行



### 台湾を知るためのブックガイド

たいわんしょたび

### 臺灣書旅～A Book Guide to Taiwan～

2022年、台湾文化センターと紀伊國屋書店は、台湾の文化をより広く、より深く、より多くの方々に知っていただくため、SNET台湾（NPO法人日本台湾教育支援研究者ネットワーク）の監修でブックガイドを作成しました。文・人・政・食・旅・学・日の7つのカテゴリー29テーマから、エッセイと共に約400点を紹介しています。QRコードよりPDF版をご覧ください。更なる台湾との出会いにお役立て下さい。



臺灣書旅 PDF版